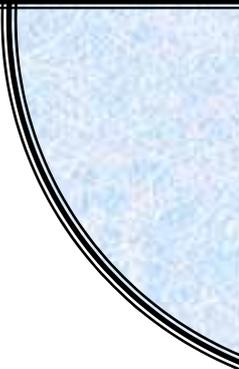
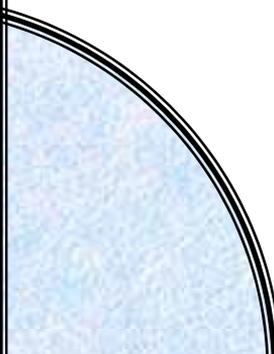




市民環境調査「冬鳥の観察」報告書



川越市



目 次

観察会の概要	1
参考資料	6
配布資料	9
参考文献	20

観察会の概要

1. 目的 過去現在において野鳥の生息状況がどのように変化したのかをバードウォッチングを通して調査し自分の身の回りの環境について考える
2. 日時 平成16年2月14日(土) 9:00~12:00
3. 開催場所 農業ふれあいセンター及び伊佐沼周辺
4. 講師 (財)埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部
支部長 笠原 啓一 幹事 福原 時夫
5. 参加者数 34名
6. スケジュール 9:00~9:15 挨拶、講師紹介、資料及びスケジュール確認
9:15~9:30 バードウォッチングについての説明
9:40~11:00 冬鳥の観察
11:10~11:40 まとめ、質問、提出物記入 解散
7. 観察結果

河川・湖沼の鳥	アオサギ	干潟・海岸・海上の鳥	カワウ	
	イソシギ		セグロカモメ	
	カルガモ		市街地・公園の鳥	キジバト
	カワセミ			スズメ
	コガモ			ヒヨドリ
	コサギ		農耕地の鳥	ツグミ
	コチドリ			ハシボソガラス
	ダイサギ			ムクドリ
	ハクセキレイ		高原・草原の鳥	オオジュリン
	マガモ			
里山・低山の鳥	アオジ			
	オオタカ			

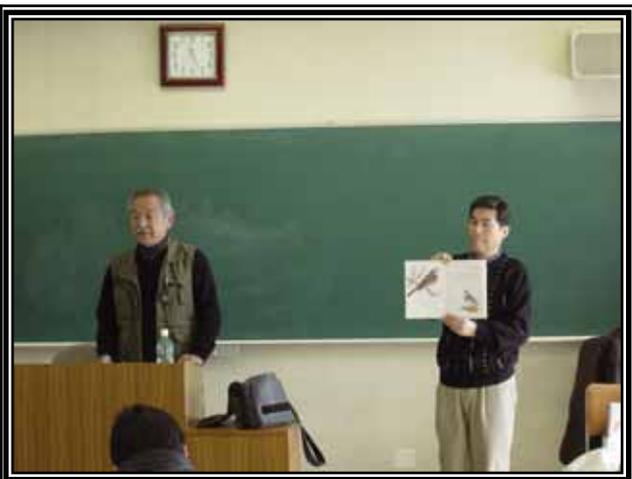
今回の観察の結果、21種類の野鳥を見ることができました。その中でサギは、アオサギ・コサギ・ダイサギの3種類、カモは、カルガモ・コガモ・マガモの3種類を観察することができました。

また、アオジ、オオタカについては、一部の参加者により観察されました。季節の違いにより、他種の野鳥を見ることができるとおもわれます。





9. 観察風景



10. アンケート結果

何を見て、(だれから聞いて)参加しましたか？

- ・広報 17名 ・親 8名 ・市からの文書 7名

何が楽しかったですか？

- ・たくさん鳥を見ることができたこと ・望遠鏡での観察が楽しかった
- ・珍しい鳥を見ることができたこと ・説明がわかりやすかった 等

普段、環境について心掛けていることまたは、これから心掛けようと思ったことを書いて下さい

- ・ごみの分別 ・水質の改善 ・ごみの減量 ・自然保護 等

次は何をやりたいですか？

- ・春夏秋鳥の観察 ・星空の観察 ・樹木の観察 ・河川敷、山の野鳥観察
- ・魚の観察 ・自然体験 ・植物の観察 ・昆虫の観察 等

11. まとめ

バードウォッチングは、年間を通じて誰もが楽しめて、貴重な可愛い鳥を見ることができ、また野鳥の観察を通して自然環境について考えることができる素晴らしい催しです。(財)埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部の記録によると、伊佐沼において20年間野鳥観察を行った結果、112種を観察することができたそうです。しかしながら、年間の観察種は平均して53種で、半分にも満たない状況だと言われています(詳しくは、参考資料にて)。

野鳥が飛来して来て、長く留まらずに去ってしまうことから判断すると、伊佐沼の環境は良くない、悪くなっているとも言われています。

人間の生活を中心に据えたスタイルを変え、自然とともに仲良く暮らせるまちづくり、またそのような心掛けを持っていないと、昔観察できたような鳥を見ることができなくなるような気がします。そうならないためにも、何に対しても思いやりの気持ちを忘れてはいけなと感じました。

今後とも市民の方々と共に、今回できなかった春・夏・秋鳥の観察、湖沼以外の場所での観察を行い(予定)、川越の自然環境を見守って行きたいと思いません。

参 考 資 料

探鳥会の記録から見る伊佐沼の野鳥

笠原 啓一（（財）埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部）記録

（財）埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部は、20年にわたり伊佐沼を観察してきました。その記録から読み取ったもの紹介します。

20年間で記録された野鳥の種類は合計112種（ + + ）で、1年間の記録最小種類数は46種（2001年度）、最多種類数は67種（1985年度）、年間の平均は53種です。

毎年観察した種類 40種（a + b + c）

a 四季を通じて観察した種類 23種

カイツブリ	カワウ	ゴイサギ	ダイサギ	コサギ
アオサギ	カルガモ	バン	コチドリ	イソシギ
キジバト	カワセミ	ヒバリ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
ヒヨドリ	シジュウカラ	カワラヒワ	スズメ	ムクドリ
オナガ	ハシボソカラス	ハシブトカラス		

b 夏に観察した種類 5種

種 名	観察月	種 名	観察月
ヨシゴイ	5～9月	ツバメ	3～10月
コアジサシ	4～8月	オオヨシキリ	5～10月
セッカ	3～9月		

c 冬に観察した種類 12種

種 名	観察月	種 名	観察月
マガモ	10～5月	コガモ	9～5月
ヒドリガモ	10～3月	オナガガモ	10～4月
ハシビロガモ	11～4月	ホシハジロ	11～5月
ユリカモメ	10～5月	モズ	9～7月
ウグイス	11～4月	ツグミ	11～5月
ホオジロ	11～4月	アオジ	11～4月

年により記録があるが、毎年は観察していない種類 21種

種名	観察年				観察月
	79～86年	87～91年	92～96年	97～01年	
アオサギ					5月、7～10月
チョウサギ					8～10月
キンクロハジロ					10～4月
ミコアイサ			95年		12～2月 97年から毎年
ムナグロ		91年	92年		5月、9月
ハマシギ				99.00年	11～5月
アオアシシギ		87.89年	93.96年	99.01年	10月、11月
タシギ					9～5月
セグロカモメ			93.94年	96.97年	12～4月
オオセグロカモメ			92年		7月
ウミネコ		87年	95年		8月、9月
コゲラ					4～6月、8月、10月、12月、1月
ショウドウツバメ					8月、11月
イワツバメ					7～9月
キセキレイ					11月、12月
タヒバリ					11～2月、4月
ジョウビタキ					11～4月
メジロ					9～2月、4月
カシラダカ					11月、12月
オオジュリン					11～3月
シメ					12～3月、4月

数年に1回の記録で、過去10回未満の観察した種類 51種

83マーク 83年以前の記録

種名	観察年月	種名	観察年月
ハジロカイツブリ	85年12月	ミミカイツブリ	83、11月、12月
カンムリカイツブリ	94年、97年12月、2月	ササゴイ	83、85年、87年、90年6月、8月、9月
オオハクチョウ	01年12月	コハクチョウ	83、11月
オシドリ	97年10月、11月	アメリカコガモ	95年12月
ヨシガモ	93～96年1～3月	オカヨシガモ	98年12月
シマアジ	83、85年、90年、94年9月、10月	スズガモ	85年、88年、89年12月
ミサゴ	8310月	トビ	83、91年、92年、96年、

			97年9月、10月
オオタカ	98年、99年12月、3月	ハヤブサ	97年1月
チョウゲンボウ	83、87年、88年、92年、 97年、98年、99年4~2月	コジュケイ	85年、93年、 98年6月、8月
キジ	92年、94年、97年、 99年4月、6月、12月	ヒメクイナ	83、10月
クイナ	83、10月、11月	オオバン	83、95年7~9月
イカルチドリ	83、85年、88年、 89年10月、11月	シロチドリ	83、85年、91年3月
メダイチドリ	83、9月	ダイゼン	85年12月
ケリ	87年12月	タゲリ	83、85年、89年、 90年12月、1月
トウネン	83、12月	オジロトウネン	85年11月
ウズラシギ	83、10月、11月	エリマキシギ	99年4月
ツルシギ	83、85年、88年4月	クサシギ	83、9月、10月
タカブシギ	83、95年9月、10月	キアシシギ	85年、87年、88年、90年、 96年、97年5月、8月
ハジロクロハラアジサシ	00年9月	アジサシ	83、85年、87年、94年、 95年、99年5月、7月
シラコバト	90年、92年12月、1月	カッコウ	85年、90年、93年、 95年5月、6月
ツツドリ	90年10月	ヤマセミ	96年4月
ヒレンジャク	83、3月	ノビタキ	83、9月
シロハラ	95年3月	コヨシキリ	83、85年、 92年5月、6月
ヤマガラ	96年12月	ホオアカ	83、3月
イカル	85年、01年4月	コムクドリ	85年5月
カケス	88年10月		

観察回数の多くなった種類 7種

カワウ、アオサギ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、ユリカモメ、コゲラ

個体数の多くなった種類 4種

カワウ、カルガモ、コガモ、ユリカモメ

観察回数の少なくなった種類 20種以上

ヨシゴイ、チョウサギ、キンクロハジロ、クイナ、オオバン、シギやチドリの仲間、特にハマシギ、タシギ、ショウドウツバメ、イワツバメ、キセキレイ、タヒバリ

観察回数は然程変わらないが、個体数の少なくなった種類 7種

カイツブリ、ゴイサギ、アマサギ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、オオヨシキリ

配 布 資 料



市民環境調査「冬鳥の観察」



平成16年2月14日(土) 9:00~
伊佐沼周辺にて 天気:



目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁

基礎知識・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 頁

観察記録（伊佐沼周辺）・・・・・・・・・・ 5 頁

自由欄・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 頁

はじめに

1 目的

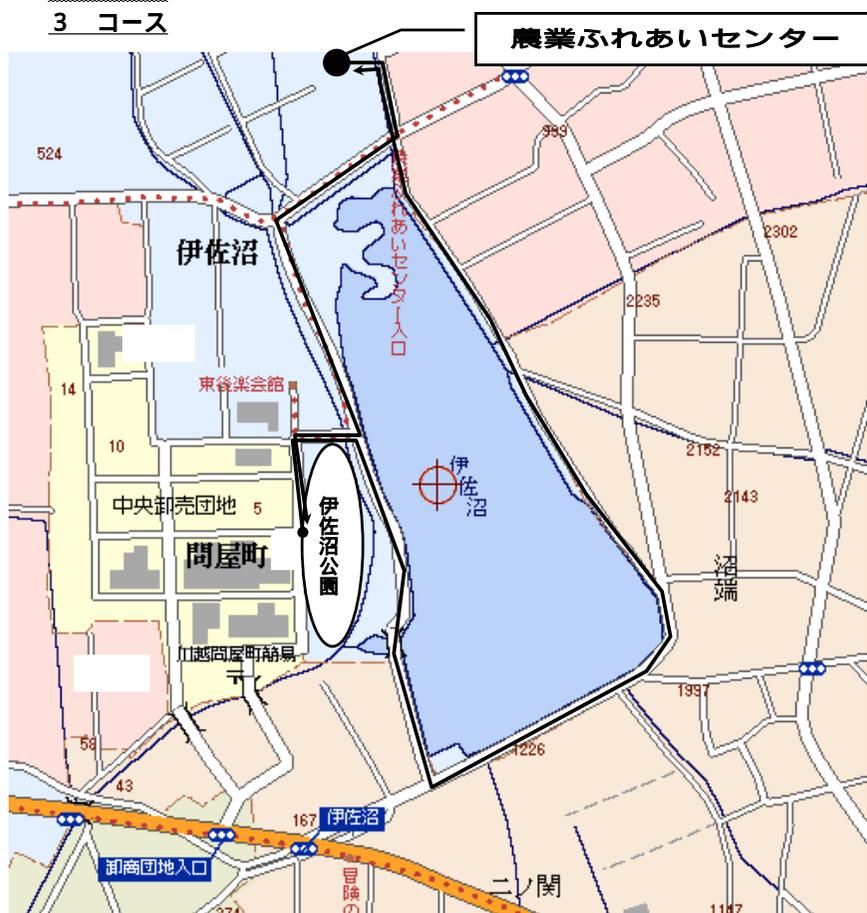
過去現在において、野鳥の生息状況がどのように変化したのかをバードウォッチングを通して調査し、自分の身のまわりの環境について考える。

2 調査方法

5ページ以降に掲載されている鳥の写真を参考にし、その中に見ることができた鳥がいた場合、名前の隣のチェック欄に を付けて下さい。

また、見ることができた鳥の大まかな位置を、下記にある地図に記入して下さい。

3 コース



基礎知識

春夏秋冬のバードウォッチング

春：冬鳥や旅鳥が北に移動し、夏鳥が南の国からやってくる北上の季節です。緑が芽吹き、虫達が活発に動き出す頃、その虫の餌に、多くの鳥達が子育てシーズンに入ります。オスがさえずり、ペアができて、子育てが始まります。

夏：子育てが終わる初夏まで、夫婦の縄張りを宣言するためにオスは歌い続けます。やがて、連れ立った親子が見られるようになります。8～9月頃は、羽が抜け変わる時期で、多くの鳥が活動的ではありませんが、国内の干潟では旅鳥のシギやチドリの仲間が南下して来て、賑わいます。

秋：南下の季節で、夏鳥や旅鳥が南へ移動し、冬鳥が北から飛来し始めます。

冬：寒さや食物の不足などで、生き残りをかけた試練の季節とも言えます。市街地で野鳥の種類や数が多くなり、木の葉が落ちて姿を見つけやすい季節でもあります。

バードウォッチングの道具

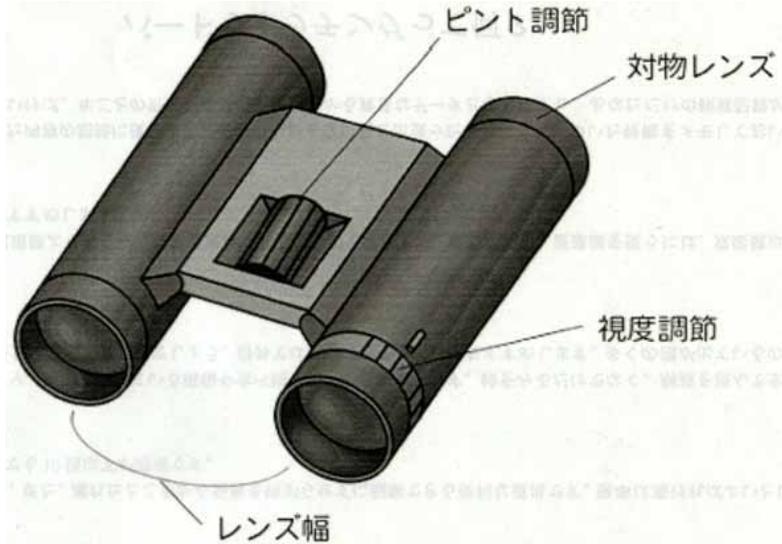
双眼鏡：野鳥を近くに感じることができ、また離れた所から野鳥を怖がらせずに観察できる便利な道具です。倍率は高めれば良いというものではなく、初心者なら7～8倍、ベテランでも10倍以下が適当です。

図鑑：観察した野鳥の名前を確かめたり、鳥の暮らしている環境や食べ物を知ることができます。絵を見るだけでなく、解説を読んで全体として大切なこと、「種ごとのすみかや習性」を知っておくとよいでしょう。野外では携帯できるサイズをおすすめします。多くの種が出ているのが良いとは限りません。

望遠鏡：倍率は約20倍位が普通です。双眼鏡よりも更に対象を大きく見ることができますが、視野が狭く、望遠鏡を使うには双眼鏡以上に慣れが必要です。初心者にはまず双眼鏡をおすすめします。

フィールドノート：見つけた野鳥の名前や、観察した内容の記録に使います。名前のわからない鳥と出会った時に、気が付いた特徴をメモしておいて、後で調べるのにも役立ちます。記録を続けていけば、年ごとの野鳥や自然の変化がわかる貴重なデータとなりますし、あなただけの観察記録ができあがります。

双眼鏡の使い方

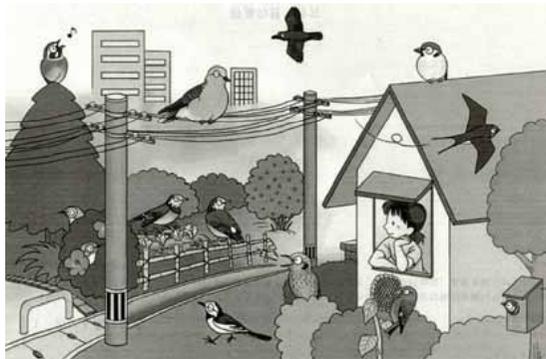


双眼鏡を自分用にあわせる

双眼鏡をのぞいて、「自分の目の左右の幅とレンズの幅を合わせます」「双眼鏡をのぞいた視野がひとつの（丸）になるように調整します」「左右の目の視力が違う人は、視度調整をします」「首にかけるひもは短めに、胸のあたりにくるようにします」

双眼鏡を使う時に気をつけること

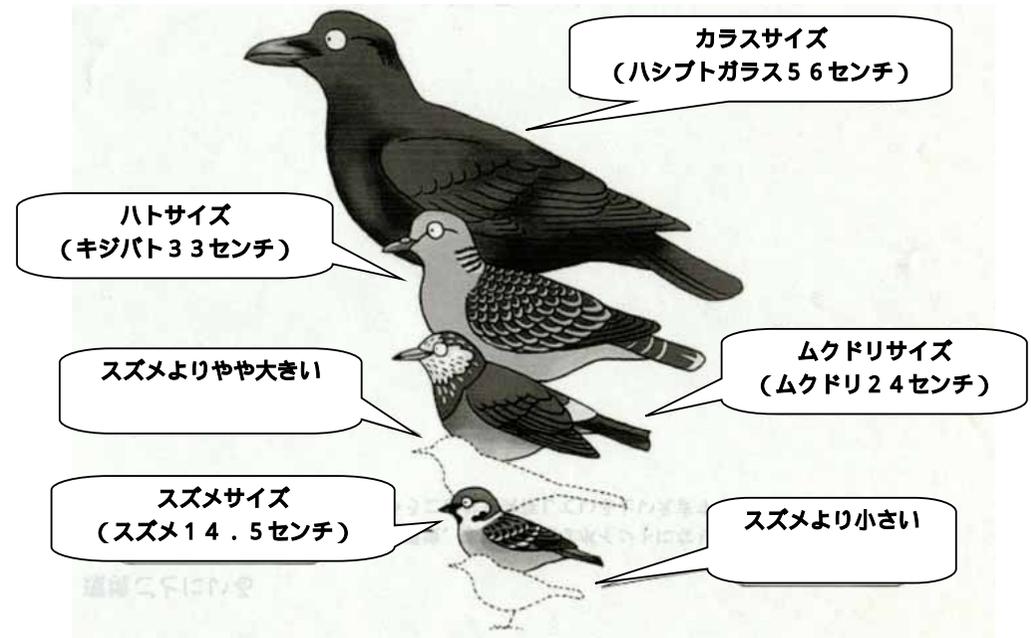
「太陽を見てはいけません。レンズで集まった光を受けて、目を傷める可能性があります」「レンズはホコリや湿気が嫌い。指でレンズに触れるのもいけません。ホコリや水滴、指で触って指紋がついてしまった時などの手入れは、やわらかい専用の布を使いましょう」「人間観察をしてはいけません。周囲の人を嫌な気持ちにさせないように、マナーを守りましょう」



ものさし鳥を覚えよう

見分けられるようになるためには、「ものさし鳥」を覚えるのも一つの方法です。「ものさし鳥」とは、身近で会いやすい鳥の代表「スズメ」「ムクドリ（ムクドリが身近でない地域ではヒヨドリ）」、「ハト」、「カラス」の4種類です。「ものさし鳥」をよく観察することで、出会った鳥の大きさをイメージできるようにするとよいでしょう。例えば、メジロと出会った時に「スズメより少し小さい」、ツグミと出会った時に「ムクドリと同じくらいの大きさ」などと表現します。

全長とは、くちばしの先から尾羽の先までの長さです。通常は鳥を寝かせた状態ではかりますが、個体差もあるので、数字はおおよその目安とを考えてください。



文書及び写真等は、(財)日本野鳥の会HP・野鳥かみしばい及び
(株)日本文芸社発行「野鳥ウォッチングガイド」から抜粋したものです。

観察記録（伊佐沼周辺）

カイツブリ



コサギ



カワウ



アオサギ



ゴイサギ



マガモ



ダイサギ



カルガモ



コガモ



コチドリ



ヒドリガモ



カワセミ



オナガガモ



ユリカモメ



ホシハジロ



キジバト



ハクセキレイ



ジヨウビタキ



セグロセキレイ



ツグミ



ヒヨドリ



ウグイス



モズ



シジュウカラ



メジロ



スズメ



ホオジロ



ムクドリ



アオジ



ハシボンガラス



カワラヒワ



ハシブトガラス



自由欄

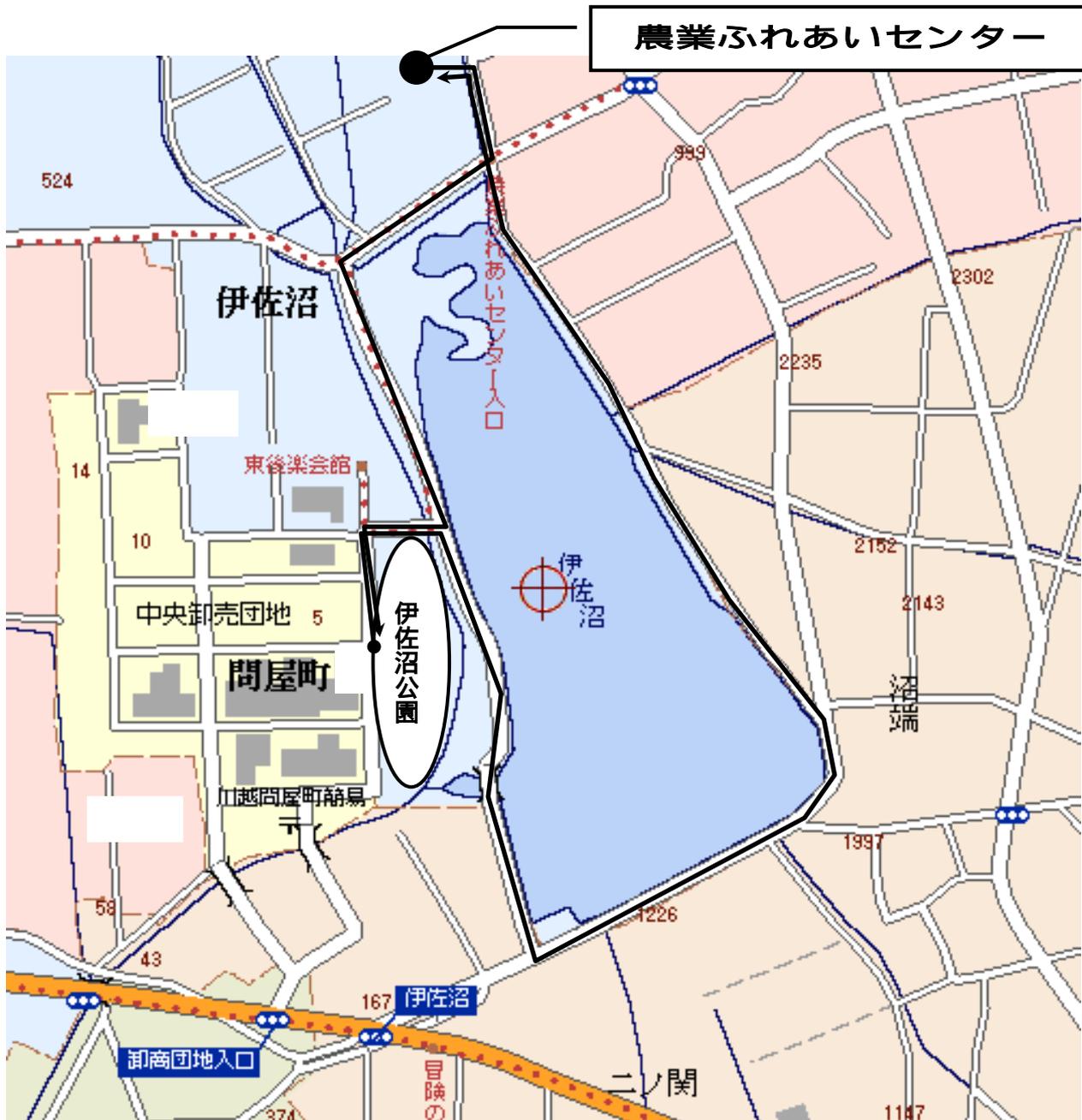
その他に見られた鳥等を記入して下さい。



スマイルシティ・川越

観察記録（伊佐沼周辺）転記用

観察者の名前			
日時	平成16年2月14日（土）9時00分から		
場所	伊佐沼周辺	天気	



伊佐沼周辺において観察された鳥

鳥の名前	チェック欄	鳥の名前	チェック欄
アオサギ		スズメ	
アオジ		セグロセキレイ	
ウグイス		ダイサギ	
オナガガモ		ツグミ	
カイツブリ		ハクセキレイ	
カルガモ		ハシブトガラス	
カワウ		ハシボソガラス	
カワセミ		ヒドリガモ	
カワラヒワ		ヒヨドリ	
キジバト		ホオジロ	
コガモ		ホシハジロ	
コサギ		マガモ	
コチドリ		ムクドリ	
ゴイサギ		メジロ	
シジュウカラ		モズ	
ジョウビタキ		ユリカモメ	

その他に見られた鳥等

アンケート

1. 何^{なに}を見^みて、(だれから聞^きいて)参^{さん}加^かしましたか？

2. 何^{なに}が楽^{たの}しかったですか？

3. 普^ふ段^{だん}、環^{かん}境^{きょう}について心^{こころ}掛^がけていることまたは、これから心^{こころ}掛^がけようと思^{おも}ったこと^{こと}を書^かいて下^{くだ}さい。

4. 次^{つぎ}は何^{なに}をやりたいですか？

参 考 文 献

(財)日本野鳥の会ホームページ及び野鳥かみしばい

(株)日本文芸社発行「野鳥ウォッチングガイド」

(財)埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部作成の野鳥観察記録
第1回 かわごえ環境フォーラム かわごえ環境活動報告集掲載



なお、本報告書の全部または一部の転載・複写複製はご遠慮下さい。

平成15年度 市民環境調査
冬鳥の観察 報告書

平成16年2月14日(土)開催

発行元 川越市環境部環境政策課

〒350 - 8601 川越市元町1 - 3 - 1

:049 - 224 - 8811(代表)

FAX:049 - 225 - 9800

E-mail:kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp



スマイルシティ・川越

この冊子は、古紙配合率100%（本文）、古紙配合率70%（表紙）の再生紙を使用しています。

R100 R70